

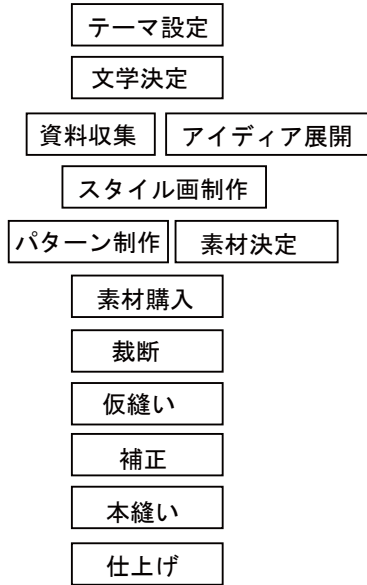
# 文学からイメージした衣装デザイン

33番 渡邊 郁子

## 【制作意図】

「衣装は言葉以上のものを伝えてくれる」と言うように映画、舞台に衣装は欠かせないものです。衣装とは登場してくる演技者達をより輝かせてくれます。私はそのような世界に触れてみたいと思い文学を映像化、又は舞台化すると想定し登場人物の人柄、言動、物語から連想されるイメージを基に衣装をデザインし、その衣装から人物像が伝わってくるような作品を制作していきたいと思いました。

## 【制作過程】



## 【デザインコンセプト】

### スタイル1 (オーシーノウ公爵)

「勇敢で凛々しい」

直線的なラインを用い、色に関しては黒を使いより男性らしさを強調しました。素材にはベルベットを用い位の高さを表現しました。

### スタイル2 (ヴァイオラ)

「慎み深く上品」

男性の服装の中にも、内に秘めた女性らしさを表現するため、襟の形を直線的なものではなく丸みのあるラインにしました。ジャケットの素材もフェルト生地にして柔らかさを出しました。

### スタイル3 (オリヴィア)

「エレガントで可愛らしい」

スカートのひだをドレープにしエレガント感を表現しました。その中にも可愛らしさを出すため、中のスカート丈を短くしました。素材は光沢のあるサテン生地にして品のある雰囲気を出しました。

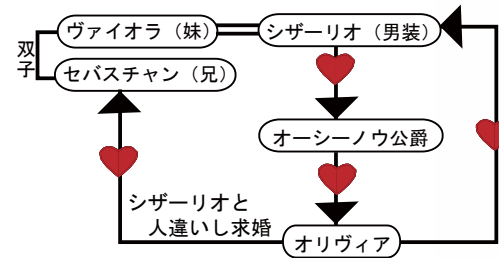
## 【考察・感想】

文学から舞台化のための衣装の制作ということで、登場人物のイメージがなんとか表現することができたのではないかと思います。制作するうえで美しく仕上げるということとはとても大変なことだと改めて実感させられました。きれいに縫うことが出来ても実際に着てみて自分のイメージしていたものと違っていたり、体型に合わずパターンから直していくということが多々ありました。卒業制作を通して私は、洋服を作る技術を学ぶ事ができ洋服を見る目も変わってきました。将来につながる大きな経験をする事ができました。

## 「十二夜」 作者：シェイクスピア

### 内容

人違いの喜劇で、双子の妹ヴァイオラが男装してオーシーノウ公爵とオリヴィア姫の間に入ることで三角関係が生まれ、双子の兄セバスチャンが現れたことによりそれぞれの幸せを掴むという物語



スタイル1 【オーシーノウ公爵】



スタイル2 【ヴァイオラ】



スタイル3 【オリヴィア】